

令和8年度第1回荒川区地球温暖化対策協議会 議事録

■ 日時 令和8年6月2日（火）午後3時00分～午後4時30分

■ 場所 荒川区役所本庁舎5階 大会議室

■ 出席者

委員 12名

金原会長、柳下副会長、鈴木委員、近藤委員、中島委員、天野委員、山田委員、林委員、谷井委員、三枝委員、諸角委員、茶谷委員

■ 欠席者

委員 2名

石田委員、西川委員

■ 配布資料

【名簿】 荒川区地球温暖化対策協議会委員名簿

荒川区地球温暖化対策協議会実行委員会委員名簿

【資料】 第1回地球温暖化対策協議会資料

報告1 荒川区におけるエネルギー消費量とCO₂排出量の実績について

報告2 令和8年度の主な環境・清掃リサイクル推進事業について

報告3 荒川区地球温暖化対策協議会実行委員会

令和7年度事業報告及び令和8年度事予定

【参考資料】 荒川区地球温暖化対策協議会規約

荒川区地球温暖化対策協議会実行委員会会則

■ 議事概要

1) 開会

2) 委員自己紹介

3) 議事

議事（１）荒川区におけるエネルギー消費量とＣＯ₂排出量の実績について【資料 報告１】

【事務局より説明】

資料 報告１について説明

【質疑応答】

発言者	発言内容
副会長	地球温暖化対策への取り組みに対する指標として、エネルギー使用量やＣＯ ₂ 排出量ではなく、例えば、太陽光パネルの設置状況が変わったとか、ＥＶの充電設備がどのように変化しているかなど、荒川区の責任でできる指標を荒川区の計画の中で位置づけているか。
事務局（環境課）	ご指摘のような、太陽光パネルを何件目標など書いているわけではないが、一方で省エネ機器を導入したことによってどれだけ効果があるということを分かりやすく示す必要がある。この後の資料でも出てくるが、よく使われている手法として、杉の木何本分のＣＯ ₂ が削減できたという形で説明している。
委員（区職員）	荒川区には「花と緑の基本計画」というものがあり、区内の緑の量の数値目標を掲げている。狭い荒川区の中で、難しい面もあるが、ＣＯ ₂ を吸収する面での考えも、荒川区として取り上げている。

議事（２）令和８年度の主な環境・清掃リサイクル推進事業について【資料 報告２】

【事務局より説明】

資料 報告２について説明

【質疑応答】

発言者	発言内容
委員 （町会等代表）	町会として週１回プラスチックを回収しているが、週１回で間に合うのかというくらいプラスチックごみが出ている。燃えるごみが７％減ったというが、実感としてはもっと減っているように感じている。町会としては分別をしない外国人にも困っている。 また、蛍光灯のＬＥＤ化について、町会の方に聞き取りすると、取り替えているという声が多く、進捗具合は分からないが、大分進んでいるのではないかと。
事務局（関係課）	ご指摘のとおり、現状７％可燃ごみの減量を達成できており、皆様の頑張りのおかげで非常に大きな結果が出ている。そういった結果を、荒川区として区報、ホームページ等々で説明していきたい。 外国人の対策については、多言語化した資料の配布を行っている。新たな取り組みとしては、外国人が住み込みで働く事業者にアプローチを始めている。

発言者	発言内容
事務局（環境課）	ＬＥＤについて、エコ助成は５月から受付を開始し、町会の皆様にも回覧板を通じて周知させていただいている。現在の予算の執行率は６％ほどで、順調に申請いただいている状況である。特にＬＥＤに関しては、２０２７年に蛍光灯の製造が終了する中で、直管型の器具ごとの交換をエコ助成の対象としており、そういったＰＲもさせていただいている。
事務局（関係課）	プラスチック回収について、荒川区では、回収したプラスチックだけを使った製品作りに取り組んでいる。一つの成果として万年カレンダーを製作し、川の手荒川まつりで配布した。他の製品についても制作して区民の皆様に戻元していきたい。
委員 （町会等代表）	プラスチックと紙の分別が難しいので、分別例を豊富にしたチラシを作っていただきたい。
委員 （関係団体）	ごみの集積所について、新たにごみ集積所を作る際に、区の職員の方に協力していただきたい。 花と緑の基本計画について、単にＣＯ₂を吸収するだけでなく、緑を設置したことによって生まれるコミュニケーションや色々な昆虫が来るようになったとか、そういった環境学習の視点も、一緒に進めていってほしい。
事務局（関係課） 委員（区職員）	新たにごみの集積所を作る必要がある場合は、清掃事務所に連絡いただきたい。 花と緑の基本計画には、委員ご指摘の視点が入っている。区では、「街なか花壇」という事業を実施していて、おっしゃっていただいたとおり、そこでコミュニケーションが生まれて、環境教育にも非常に効果がある。単に緑を広めるだけでなく、そういった効果も期待できるので、引き続き、その点は盛り込んでいきたい。
委員 （事業者関係者）	熱の脱炭素化ということで、国や東京都でも高効率給湯器という形で補助金制度が手厚くなってきている。具体的にはガスの給湯器を潜熱回収型にするだけで１０～１６％の省エネになる。補助金含め、潜熱回収型給湯器が省エネになるということの啓発活動を検討していただきたい。
事務局（環境課）	いわゆるエコジョーズについて、東京ゼロエミポイントの対象になっている。エコ助成においては、色々な商品がある中で、さらにもう一段階省エネ性能が高いものを選ぶときのハードルを下げる趣旨なので、委員指摘の部分については、技術革新が進んでいる中で、こういったものを対象としていくか、引き続き考えていきたい。
副会長	ＣＯ₂を削減する主体は行政ではなく、荒川区全体の２０万人、あるいは民間の経済活動主体が、実施しなくては意味がない。経済活動なら、民間の色々な需要供給が上手くいくように、行政は施策を講じ、お金の流れや税制を変えることによって、民間の取組みを加速させる。行政施策の仕組みを点検してもよいが、肝心の民間の取組みをいかに加速させるかは、排出量だけを見ても分からない。ＣＯ₂排出量は、東京

発言者	発言内容
事務局（環境課）	都のデータを基に、２３区で按分した値では荒川区の施策の成果が分からない。東京都の中のいくつかをサンプル取ってきて平均を出すのでは、江東区や中央区でも同じになってしまうので、例えば、病院の場合は、大学の場合というように、用途別でもいいのではないかと。 お伝えしたいのは、実際に取組みを実施する主体に、荒川区の施策がどういう形で伝わっているのかということである。排出量自体が荒川区の本当の実態でないと思うが、２３区全体の状況をみても横ばいで、特に民間ベースもほとんど横ばいということは、本格的な大きな加速がないのではないかとという見方が現れたとも言える。 要するに、社会を支える様々な主体に対して、どうやって徹底的に伝えるかという戦略について、協議会では、話題として取り上げたい。
委員（関係行政機関）	実行計画自体を配って見てくださいますと、正直難しいところがある。一方で、各家庭でどんなことをやるとどんな効果があるかは、実行計画とは別にアクションプランというものを作っている。概念としては「カーボンフットプリント」など、物ができるまでにどれだけのCO₂が出るのかをパンフレットにしている。そうしたものを実行委員会が出店するイベント等で配布し、何をすればどれくらいの効果があるということをPRしている。 副会長のご指摘のとおり、東京都として２３区全体としての補助金の執行、個々の区における主体に向けた状況というのを把握しているわけではない。ただ、区市町村の連携の中で、区ごとに抱えている課題やボトルネックになっているところの情報共有、普及啓発をやっていく必要がある。特に、東京ゼロエミポイントでは、エアコンの申請がものすごく増えている。高齢者から申請が増えており、やはり「災害級の暑さ」など、危機感をもったPRをしている。そういったところで、主体に対して直接的に響くようなアプローチっていうところも検討していきたいと思っている。

議事（３）（荒川区地球温暖化対策協議会実行委員会 令和７年度事業報告及び令和８年度事業予定）

【資料 報告３】

【事務局より説明】

資料 報告３について説明

【質疑応答】

発言者	発言内容
委員（事業者関係者）	この委員会をより有意義なものにするために、実績と評価というところが必要だと思っている。２０３０年にCO₂４６．８％減というところになっているが、実績が出るのが２、３年後として、このままいくと２０３３年頃に、例えば「２５％減で削減目標を達成できませんでした」で終わってしまうのではないかと。そういった中で、現実的な目標設定を分野別に分けて行うのが良いのではないかと。それに対して

発言者	発言内容
	それぞれの施策の効果の見込みと実績を出せば、今やろうとしている施策が有効なものとして実施できたかということがアピールできると思う。 また、再エネ電力の調達やカーボンオフセットのガスの調達は、一時的に数値を減らすだけであって、実力値ではないので、実力値としてどれだけCO₂削減が進んだかという評価をするのがいいと感じた。
事務局（環境課）	ご指摘のとおり、今のままでいくと目標達成は難しい。一方で、現実的な目標設定は本当に大事なことで、どういう形で数値を見直していくか、分野別にどのようにしていけばいいのかについては、引き続き検討していきたい。
副会長	何でもCO₂の排出量で目標設定をする必要はない。対策の量で目標を設定する。 例えば、断熱であれば、断熱の対策をする世帯が増えていくがどうか。荒川区においては、国の本格的な統計データが確定するまで2、3年経って、原単位を調べて掛け算して、では対策にならない。もっとリアルタイムにわかるものを、例えば、温暖化防止活動推進センターの知見や区の業界の関係者の方の知恵を集めた方がより現実的である。そうしないと区の施策はこうやりました。排出量は横ばいでした。の繰り返しでは仕方がない。どこの自治体にもそういうことを感じてしまう。
委員 （事業者関係者）	皆さんが色々尽力されている成果が評価されないと取り組んでいる甲斐がない。現状だと、成果や頑張りが見えないので、そうしたものが見えるやり方がいいと思う。CO₂で厳しければ、対策の量や一部の個別施策の達成とかがあるのではないかな。
会長	現状、数字ばかり追ってしまっているもので、色々な施策についてテーマを持ってやった方が、荒川区に合うものがあるのではないかなと思う。防災や街づくりも含めて、三位一体で色々なものを提案してやっていけたらと思う。
委員 （事業者関係者）	事業者的な立場として、エコ助成については、最近よく話に聞いている。エコ助成を利用して蛍光灯をLEDに替えたという話が事業者の方から結構出てきている。ただ、まだ助成があることを知らない事業者もいるので、しっかりPRをしてもらいたい。PRする時には、事業者がこう使ってよかったという利用者の声を付け加えると効果的ではないかなと思う。
事務局（環境課）	利用者の声について、採用させていただいて、色々な方法でPRしていきたい。
委員 （町会等代表）	直接、地球温暖化の話とは違うが、省エネやその他防災の関係で、区の建物のトイレを雨水利用にしていってほしい。省エネにもなるが、地震対策として、上下水道が駄目になってもトイレは使えるようになる。避難所訓練等行われると、トイレが使えない前提で訓練しているが、いつどうなっても使えるようにするのが行政であると思うので、どんなときでもトイレが使えるようにしていってほしいと思う。

発言者	発言内容
事務局（環境課）	雨水利用は省エネ、節水になり、あらかわエコセンターのトイレも雨水を利用している。多少ノウハウはあるので、全庁に情報共有しながら、どのようにしたら使っていけるのか、考えていきたい。
会長	厳しい意見だと思うが、防災関連はトラック協会でも色々取り組んでいて、仮設のトイレは備蓄倉庫にたくさんあるが、排水ができない、それを運べないといった現実もある。施設管理と連携して、頑張っ取り組んでいってほしい。
副会長	以前、荒川区では、「街なか避暑地」という事業を実施していたが、引き続き活性化しているのか。
事務局（環境課）	「街なか避暑地」は、ふれあい館や図書館等に「暑い時に駆け込んでください」ということで、東日本大震災の後、開始した事業である。現在は、熱中症特別警戒アラート発令時にクーリングシェルターを開く必要があり、そのクーリングシェルターを「街なか避暑地」と位置づけ、公共施設や民間企業、薬剤師会等に協力いただき、区内50か所ほど登録していただいている。
副会長	講演会というのは面白いかもしれないが、すぐに内容を忘れてしまう。それよりも、例えば断熱や太陽光、再エネ電気への切り替え等、具体的にそれをやった家庭の実績がどうなのか、不安に思っていることを誰に相談すればいいのかといった内容の相談会が必要ではないか。また、経験者同士でお互いに交流する、もっと現実のところで困っている、不安に思っているところを交流できるような場が必要で、講演会よりも、相談会、交流会を協議会として開催していった方がいいのではないか。
委員（区職員）	ただいまの意見も含めて、本日は貴重なご意見ありがとうございます。 環境問題は、区民の皆様が我が事として一つ一つのことを積み重ねていかなければ進まない。しかし、それはニュースに書いてあったり、世界規模で目的や目標値を定めており、区民の生活からかけ離れていて想像しにくい部分がある。そこにどのように伝えていくのか、日々苦労している。今日、具体的に色々ヒントをいただいたので、活かしていきたい。 先程説明した万年カレンダーについても、皆さんが集めたプラスチックを再生工場に持ち込んで、これができたということを区民が一番集まる祭りで説明して配布した。例えば、東京ドーム何個分ごみの量が減量したなど分かりやすい表示で区民の皆様に伝えることで響くことがあるということがアンケート結果からも分かったので、訴え方についてもどのようにしていくのかを研究していきたいと思う。まだまだ足元からできることはたくさんあると思うので、区民の皆様にその気になっていただく仕組みづくりを進めていきたい。 ご意見ありがとうございました。

発言者	発言内容
会長	荒川区長も荒川区のためにＳＮＳの発信を積極的に行っている。例えばあらかわ区報についても、長年同じレイアウトではなく、視点を変えて、区民にもっと身近になるような工夫をした方がいいのではないか。
会長	ご意見が出揃ったところで、今後の地球温暖化対策に関する施策に反映させていただきたい。 それでは、これをもちまして、本日の協議会を終了させていただきます。